

第27回里山シンポジウム実行委員会議事録

日時：2006年10月11日（水） 18：00～20：50

場所：千葉市中央コミュニティセンター5F 集会室

参加者：金親、中村、栗原、荒尾(稔)、鈴木、田中、小西、稗田、本間、林、大畑(我孫子)、井村
小野芳明(記録)

：石田光男氏(東金市 企画政策部 部長)、嘉瀬智康氏(〃企画課)

1 第3回里山シンポジウム報告書進捗状況

- (1) 中村俊彦氏より発言と校正紙の委員会内での配布がされた。
- (2) 報告書の最終チェックが手続き的には完了。
(個別に分科会単位で校正確認がなされ、会議終了後集積されて、荒尾(稔)へ引き渡された。
一部、今回出席されていない先への配送の話もあり、後は荒尾と中村俊彦氏に、校正完了に関して一任された。
- (3) 中村俊彦氏よりの以下の発言があつて、委員より了承された。
 - ・スタイルは、日時、場所、参加者以外は提出してもらったままにした。
 - ・分科会ごとにチェックして訂正があれば報告すること。
- (4) 今回は、第3回分だけでなく、中村俊彦氏より第2回分に関しても正式に印刷をすべきとの発言もありました。次回の課題に。
関連として、※第2回報告書もチェック後印刷する。(要) 我孫子市のチェック。

2 第3回里山シンポジウム報告書印刷部数に関して、金親博榮会長より発言

以下部数として、費用の積算及び予算とのすり合わせをお願いします。

分科会及び協賛団体	100
後援(八千代市、上勝町を含む)	10
県	20
その他	

⇒計 400部 + α

- (1) 金親博榮氏より、印刷方法による費用が異なるとの積算報告をされ、次回に再度検討することに。

3 第4回里山シンポジウム実行会全大会候補地として東金市が引き受けて頂けることとなりました 東金市より石田光男(東金市企画制作部長)、嘉瀬智康(〃企画課)が今回の委員会に参加頂きました。 稗田忠弘氏からの紹介を受けた後、以下の趣旨で発言を頂き、諸般の話し合いを行いました

- (1) 東金市は人口6万人。
- (2) 全体会の場所としては、求名(ぐみょう)駅にある「城西国際大学」を予定。
ホールには500人収容でき、+50人まで隣の部屋で聴講可能。日程としては、5月19日土曜日を予定。
学長の水田さんは、里山に関心を持っており、里山関連の本を出版している。
大学側も今回の里山シンポジウムを有効に活用すると良い。新設された観光学科と関連させたらどうか。
- (3) サブテーマとして、東金市側から「生業」「なりわい」。
東金市は、地域産業の振興を目指している。企業を誘致するのではなく、地場産業の振興。
東金市の資源(自然・人・文化)を活用し、東金市という地域限定のものを考えている。
すると、「里山」の生活をもう一度見直すことが一番の近道であろう。
東金市ではもともと里山の生活をしてきた。シンポジウム後も東金市に残るものを企画したい。
- (4) 全体会開催予定日として、2007年5月19日(土)が案として、金親会長から発言があり、委員会として、異論はなく第一候補として内定した。同時に東金市側でも、この日時に大学側と話しあうとの意向も発言がありました。なお、同時に里山シンポジウム実行委員会そのものに関する、委員構成等の情報を送付頂きたいとの要望も
- (5) 今後、稗田忠弘氏を介して、継続的に話し合いを行っていくことで合意しました。

4 生物多様性千葉県戦略プラン

中村俊彦氏より、まず概略の説明を受けた後、以下の趣旨で質疑応答がなされました。

生物多様性とは、「命のにぎわいとつながり」である。キーワードは、遺伝子、種、生態系の三つ。

多様性が高いと、「情報量が多く」、それゆえ「無秩序」であるが、「安定性がある」。「安定性」について

は、経済的な面を指す。畑で一種類のものを栽培するより、様々な種類を栽培したほうが、経済的に安定性がある。

(1) 生物多様性は、無秩序であるのに、「戦略プラン」ということは秩序をつくることであるから、矛盾しているのではないか。

→ 今回の「戦略プラン」は、環境政策の一部である。国に指示されたからつくるのではなく、千葉県独自に始めるものである。その目的は以下の三つ。第一に、生き物の情報が今まで整理されていないので、情報を集約する。第二に、生き物が大事であるという方針を打ち出す。第三に、縦割り行政を横断的にする。農業、観光、文化、教育、自然保護の多方面に繋がるものである。

条例につながるようなものをつくる。行動に繋がるものをつくらねばならない。

(2) 三番瀬などの問題があるのに、なぜ今生物多様性なのか？

→ 三番瀬の問題解決は行き詰まりを迎えているので、いったん引くべきという意見がある。

(3) タウンミーティングの役割とは何か？

→ 役割は二点。県民の意見を聞くという点と、県民の関心をひきつける点。3ヵ月という短い期間では難しいのではないか？

(4) 今までに行われてきた里山シンポジウムなどの、生物多様性に関連する会議で得られた情報を活用していけば可能ではないか。

→ 短い期間で難しいのは確かだが、最初の一步としては意味があるのではないか。

現場の人間は、生物多様性を守ることが急務であると捉えているので、是非とも考えてもらいたい。

(5) 重要なポイントは、千葉の地権者の大半は「農家」であるので、「農家」をタウンミーティングに引き込まなければならないということ。その地域の状況を一番良く知っているのは農家である。農家を引き込む方法を考えなければならない。

→ 同感である。

5 その他

今回の議事録は、東金市在住の早稲田大学大学院に在籍中の小野芳明氏に記録を取って頂きました。早速的確なまとめをメールで送付いただきました。ありがとうございました

(2) 今回は、活発な意見交換に時間を費やし、時間切れとなりました。従って、その他欄に掲載出来る各委員からの報告等を聞かせていただく時間がありませんでした。事務局として申し訳なくお詫び致します。次回はしっかりと時間を確保させていただきます。

6 次回の里山シンポジウム実行委員会（第28回）

開催予定日：2006年11月16日 午後6時より

場所：千葉市中央コミュニティセンター5F 集会室(予定)